

# 相談報告 2022

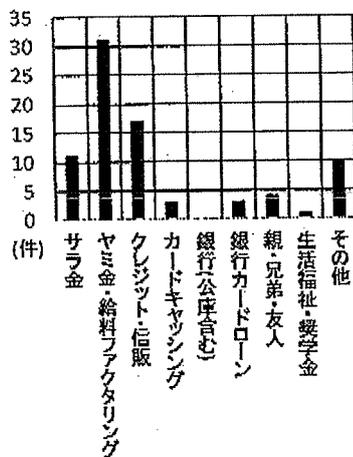
札幌陽は昇る会

当会は火曜日・木曜日を相談員待機日とする他、連携する他団体と共に札幌市及び近郊での街頭相談会が主な活動である。

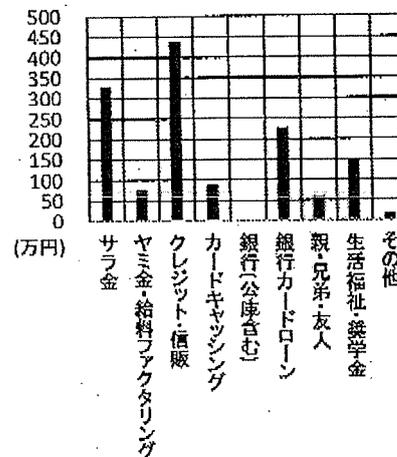
年代	男	女	年代計
20代	4	0	4
30代	1	0	1
40代	0	0	0
50代	0	8	8
60代	4	0	4
70代	1	1	2
合計	10	11	21

2021 年度相談者は 21 名で前年度より 4 名増。平均借入額は 77 万円、平均利用件数 4.4 件と 2020 年度に比べて、平均借入額が 40 万円減ったが平均利用額は 2 件増加している。男女比率はほぼ半々だが、男性の相談は若年層給与ファクタリング被害、高齢者は生活困窮相談が中心であり、女性の相談は 50 代以上の生活困窮相談がほとんどであった。

主な借入先



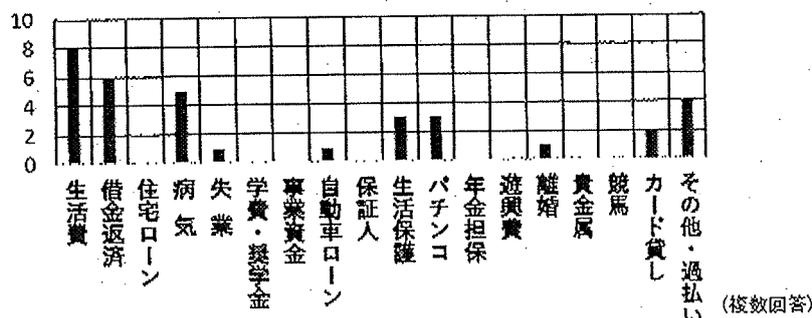
債務額



上記グラフは主な借入先と債務の額である。2020 年度より借入額は減少の半面平均利用件数が増加したのは、給与ファクタリングや買取金融等、新卒の被害相談が増加したことによる。さらに収束の見えないコロナ禍での生活困窮相談や生活保護受給相談も多く寄せられた。事業や奨学金の相談はなく、給与ファクタリングはヤミ金同様、1 件あたりの借入額は少額だが、多くの業者を利用していたことで件数の増加となった。

債務相談の要因が下記のグラフである。

債務の原因



生活費不足と借金を借金で返済する相談はもはや一般的だが、病気・離婚・パチンコ依存相談は根強くある。2021年度の給与ファクタリング相談はパチンコ依存が主な原因だった。

当会の場合過去の相談者が継続的に相談するケースも多く、債務は解決してもそれ以外のくらし・相続・生活保護等相談も幅広く寄せられる。住宅・自動車ローンがここ数年減っているが、住宅や車を持つ余裕がない相談者が増加していると思われる。

今後の問題だが、コロナ禍においても週2日の相談体制は維持できているが、感染拡大を鑑みると対面相談の難しさも痛感しており、会の運営が難しくなっている。

また、収束が見えないコロナ禍において、緊急小口融資や、特例貸付等の返済ができない相談の増加が懸念される。

さらに2022年4月より、成人年齢が18歳になり、クレジットやキャッシング契約年齢の若年化による相談を懸念しているが、キャッシュレス決済の普及が促進され、スマホや携帯での契約や決済が簡単に設定できることを鑑みると、今以上のクレジット教育を必要とされている。

多重債務の要因は多岐にわたり、時事や社会保障と連動した解決例も多い。近年相談窓口も増えており、多重債務者対策以外での多様化するトラブル相談のきっかけとして、相談の選択肢が多いことは道民のくらしにもメリットが多いのではないだろうか。

北海道は広大であり、過疎地ほど相談へのアクセスが難しい。観光で憧れの地と言われるが住みやすさという点ではどうであろうか。

住みやすい北海道になるためには、困った時も対処しやすい、住みよい北海道であることに道民として誇りを持ちたい。時代が変わっても官・民の連携は大切にしていきたい。